

1 題材 気持ちのよい言葉

2 児童の実態と題材選定の理由

(1) 児童の実態

入学してから半年が過ぎて、学習や生活のきまりが身に付き、学校生活にも慣れてきた。本学級の児童は、元気で、明るく素直な児童が多い。困っている友だちがいると、率先して手伝う児童がいる反面、自己中心的な言動をしてしまう児童も少なくない。

本題材について取り組むにあたり、児童が今まで友だちに言われた言葉で、どんな印象を受けたのかアンケートをとった。

平成24年10月12日実施（男子11人 女子11人 計22人）

調査項目	児童の答え
① 今まで友だちにいやなことを言われたことがありますか。それは、どんな言葉ですか。	ある 4人      ない 18人 ・めがね      ・りあるぺこちゃん ・もういっしょに遊ばないほうがいい ・(〇〇くん以外の人で) 遊ぼうと思ったのに
② 今まで友だちにうれしくなることを言われたことがありますか。それは、どんな言葉ですか。	ある 11人      ない 11人 ・じょうずだね (4人)      ・よかったね ・あそぼうよ      ・一緒に友だちになろう ・だいすきだよ      など
③ どんな言葉が、いやな言葉だと思いますか。(複数回答)	・ばか (8人)      ・しね (5人)      ・きらい (3人) ・あほ、きえろ、ぶす (各2人) ・あっちへ行け      ・おかしいね      ・てめえ      など
④ どんな言葉が、うれしくなる言葉だと思いますか。(複数回答)	・ありがとう (7人) ・一緒に遊ぼう (4人) ・すごいね (3人) ・おはよう、やったね、じょうずだね、かわいいね、すきだよ (各2人)      など

いやなことを言われた児童は比較的少なく、うれしくなることを言われたことがない児童は半数近くいる。これは、言われても覚えていない、気が付かないのではないかと推測される。そう考えると、いやなことを言われた児童にとって、その言葉は忘れられないくらいいやな言葉であると思われる。どんな言葉がいやな言葉なのか、また、うれしくなる言葉なのかは、すべての児童が答えており、児童なりに言葉の印象を受け止めていることがわかった。

(2) 題材設定の理由

児童は、悪気はなくても相手を傷つけてしまう言葉を言ってしまうことがある。特に、低学年では、遊びや日常生活の中で、相手を思いやって言葉をかけたり行動したりすることはなかなか難しい。ほんのささいなことから、子どもたちの人間関係が崩れてしまったり、昨今学校現場で問題となっている「いじめ」ととられてしまったりすることが考えられる。本学級の児童も、相手のことを考えて生活することはなかなか難しいが、学級の中で、困っている友だちに声をかけたり、失敗しても励まし合ったりできる児童を育てたいと考える。

そこで、どんな言葉が相手を傷つけてしまうのか、また、相手にとって気持ちのいい言葉なのかを考えることで、自分たちの生活の中でも実践できるようにしてほしいと考え、本題材を設定した。

3 評価規準と目指す児童の姿

観点	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
評価規準	自己の身の回りの問題に関心を持ち、進んで日常の生活や学習に取り組もうとしている。	学級生活を楽しくするために日常の生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	学級生活を楽しくすることの大切さ、そのための基本的な生活や学習の仕方などについて理解している。
目指す児童の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「気持ちのよい言葉」と「傷つく言葉」のもつ意味や、相手に与える影響について真剣に考えている。</li> <li>・「自分が言われたらどう感じるのか」と考えたり、「もし相手が言われたらどんな気持ちになるのか」を想像したりすることができる。</li> <li>・友だちと会話をするとき、この言葉が相手を傷つけるのか、相手を気持ちよくさせるのかを意識しながら接し、いろいろな友だちと仲良しの関係を築いている。</li> </ul>		

#### 4 活動と指導の見通し

	活動内容	いつ	指導上の留意点・資料	目指す児童の姿・評価方法
事前	・いやな言葉とうれしい言葉のアンケート実施	10月12日	・今までの学校生活を想起させ、書けるようにする。	・いやな言葉とうれしい言葉について、真剣に考えている。
	・いじめに関するビデオ視聴、学級のいじめゼロの誓いの話し合い	10月18日	・ビデオ鑑賞後に話し合うことで、自分の考えをまとめやすくする。	【 <b>関心</b> ・ <b>意欲</b> 】・態度 [アンケート]
	・学年のいじめゼロの誓いの話し合い	10月23日	・学年のスローガンを話し合うことでいじめゼロの意識を高める。	・楽しい学級、学校にするにはどうすればいいのか、積極的に考えている。【 <b>思考</b> 】・判断・実践 [観察]
本時	「気持ちのよい言葉」	10月29日	本時の展開	
事後	・気持ちのよい言葉を学級に掲示し、気持ちのよい言葉を使っていた児童の賞賛（帰りの会等）	10月29日以降	・傷つけてしまう言葉を使ってしまった児童には、掲示した言葉を意識できるように助言する。	・気持ちのよい言葉を友だちに使うことができたり、使っている友だちを認めたりすることができる。
	・いじめをなくそう集会	11月5日	・全校児童でいじめをなくそうと取り組むことを意識づける。	思考・【 <b>判断</b> ・ <b>実践</b> 】 [観察・帰りの会]

#### 5 本時の活動

##### (1) ねらい

気持ちのよい言葉と傷つく言葉があることを知るとともに、楽しい学級・学校にするために、友だちに対してどんな言葉をかければいいのかを考えることができる。

##### (2) 準備・資料

提示用の絵 アンケートより気持ちのよい言葉・傷つく言葉の短冊 発表カード 振り返りカード

##### (3) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法	資料	時間
導入	1 題材を知り、日常生活での課題を考える。 ○1枚の絵を提示して、二通りの言葉を考える。 ・気持ちのよい言葉 ・いやな気持ちになる言葉	・児童の学校生活の一場面（例「給食をこぼしてしまった」）を表す絵を提示し、より身近な出来事であることを実感させ、考えやすいようにする。	・身の回りにある課題について、理解している。 知識・【 <b>理解</b> 】 [観察]	・提示用の絵 ・短冊	8
展開	2 二通りの言葉を比べ、どちらがよいか、理由も併せて考える。 ①二通りの言葉を使って、ロールプレイをする。 ②全体で話し合う。	・ロールプレイを通して、同じ状況になった時、どんな気持ちになるかを考えられるようにする。 ・理由も併せて考えることで、言葉の与える印象が大きいことをより実感できるようにする。	・気持ちのよい言葉が良い理由を考えている。 【 <b>思考</b> 】・判断・実践 [観察]	・発表カード ・短冊	25
	3 気持ちのよい言葉には、どんな言葉があるのか、また、どんな時に使うのかを考え、発表する。 ①グループで話し合う。 ②全体で話し合う。	・気持ちのよい言葉をどんな時に使えばいいのかなどを考えることで、自分たちの日常生活の中でも使えるようにする。 ・グループ活動の中で、自分の考えが言えるように、発表カードを用意する。 ・思いつかない児童には、グループの話し合いの中で、同じ考えの児童がいるか考えながら聞くように助言する。	・様々な場面で、どんな言葉を使えばいいのかを考えている。 【 <b>思考</b> 】・判断・実践 [観察、発表カード]		
終末	4 振り返り ①自分がこれからできることを考え、自分の目標を決める。 ②互いに発表し合う。 5 先生の話	・なかなか考えつかない児童には、自分がしてもらってうれしいことを考えるように、助言する。 ・自分たちでできることを認めるとともに、言葉の大切さや、友だちとの関わり方などを助言する。	・自分なりに、できることを考え決めている。 思考・【 <b>判断</b> 】・実践 [振り返りカード]	・振り返りカード	12

#### 6 事後指導

- ・気持ちのよい言葉や傷つく言葉を学級に掲示し、普段の生活の中でも意識して使えるようにする。
- ・帰りの会等で、気持ちのよい言葉を使っていた児童を賞賛し、気持ちのよい言葉が学級で使われるようになっていくことを気付かせる。
- ・全校集会「いじめをなくそう集会」で、より楽しい学校生活にできるよう、考えさせる。
- ・道徳の内容2-(2)思いやり・親切や2-(3)信頼友情などとも関連させ、道徳的心情や実践力を養えるようにする。